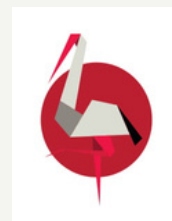


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2022年9月27日 / Vol. 020



9月19日(月)～9月25日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援

冬服支援に向けクラクフ市と契約締結



学生寮職員からウクライナ人学生約30名分の食事や言語、衣類の面で支援を依頼出来ないか、相談を受けた。
こちらの学生寮へは夏休みの間、ウクライナ人避難民46名分の食事支援を実施していた。

ご支援総額

2022年9月21日までの寄付総額 101,862,631 円

寄付金使用総額 1563732.59 zł (4,535万円)

9/19(月)～9/25(日)の期間中の寄附金使用額
40882.65 zł(約119万円)



活動内容

支援所への支援物資提供

クラクフ中央駅地下のカリタス支援所へ週2回の支援物資の買い出し支援を実施。

カリタスでは現在、600名以上が支援物資配布リストに登録されており、支援所が開放される正午には、支援を求める人で長蛇の列が出来ている。

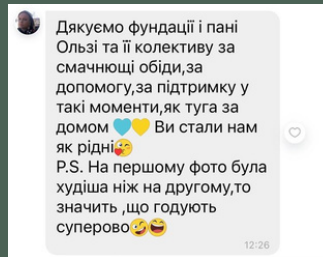


レストランプロジェクト

4店舗と協力し1週間で約770食を提供。

レストランプロジェクトを利用している女性(写真右)から日本の支援者の皆様宛に、下記のメッセージを頂いた。

「レストランのオーナー・オルガさんと、日本の支援者の皆様から、美味しい食事を頂けている事、母国が恋しく大変な時にこのようなご支援を頂けている事に、とても感謝しています。皆様は私たちにとって身近な存在となりました。ありがとうございます。」



食材支援 (毎週金曜日)

28家族に1週間分の昼食用食材を提供。

一人あたり50złの予算を設け、合計で 3572.06 zł (約104,000円)分の食材を購入。

サーモンやスケトウダラを購入する家庭が多く、これらの魚を使った料理はウクライナ市民に広く愛されている。



冬服支援に向けクラクフ市と契約締結

ウクライナ避難民2000名への冬服購入用の商品券配布に向け、対象者の選定とリスト管理を行うクラクフ市と契約を締結。

全体配布に先駆け、9月30日(金)には、クラクフ市内の日本美術技術博物館(マンガ館)にて、100名を対象に贈呈式を実施する。





現地の動向

ポーランドでは9月の3週目以降から急激に冷え込み、最低気温が10度を下回る日が続き、人々の装いは一気に冬の装いとなった。

この寒さにより、セントラルヒーティング（暖房）が稼働し始めたが、ガス式の暖房設備を導入している住居では、燃料高騰によるガス代の値上がりを懸念し、暖房の使用を控える動きが見られている。

一部の公立大学では、来年の光熱費が7倍になると言われており、暖房器具をボルトで固定し使用出来ないようにするなど、光熱費を抑えるための対策に追われている。

物価上昇によって市民生活が大きなダメージを受けている中で、この光熱費問題が更なる追い打ちをかけている。

